


初年次教育科目「応用生命科学概論」・「コミュニケーション論A」 授業報告 新潟薬科大学応用生命科学部の場合


新潟薬科大学応用生命学部
高橋 歩

 **新潟薬科大学**
Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences

初年次教育科目「応用生命科学概論」・
「コミュニケーション論A」授業報告
新潟薬科大学応用生命科学部の場合

新潟薬科大学 応用生命学部
高橋 歩


2019.3.19学管・教育研究フォーラム 1

 **新潟薬科大学**
Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences

報告内容

1. 新潟薬科大学について
2. 応用生命学部初年次教育関連科目
3. 授業アンケート結果
4. 教員による評価・反省
5. 今後の課題


2019.3.19学管・教育研究フォーラム 2

 **新潟薬科大学**
Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences

1. 新潟薬科大学について

- ・所在地: 新潟市秋葉区(旧新津市)
- ・2学部:
薬学部(6年制) 定員180名
応用生命学部(4年制) 定員120名
- ・在籍学生数:
1,440名(博士課程前後期在籍者を含む)
- ・教員数:
薬学部47名
応用生命学部29名
(平成21年5月現在)

2019.3.19学管・教育研究フォーラム 3

 **新潟薬科大学**
Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences

応用生命学部


平成14年開設。「バイオ・食品・環境」

応用生命科学科: 動物・細胞生物工学, 応用微生物・遺伝子工学, 生物機能化学, 植物資源学・細胞工学, 環境安全科学, 生物分子科学

食品科学科: 食品機能科学・食品分析科学, 食品・栄養科学, 食品製造・食品工学, 食品微生物・食品安全学, 食品生物工学・分子科学, 機能性食品開発, 化学・生物学

(英語)

2019.3.19学管・教育研究フォーラム 4

 **新潟薬科大学**
Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences


2. 初年次教育関連科目

(1)「応用生命科学概論」
1年次前期 必修科目

(2)「コミュニケーション論A」
1年次前期 選択科目

*この2科目および他の複数の1年次必修科目で扱う内容をなるべく関連させるようにした。

2019.3.19学管・教育研究フォーラム 5

 **新潟薬科大学**
Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences

(1)「応用生命科学概論」

目標
履修する科目体系の概略を理解する。研究室で行われている研究内容に触れ、学部全体のイメージをつかむ。

評価対象
レポート2種, 出席状況

2019.3.19学管・教育研究フォーラム 6



(1)「応用生命科学概論」授業内容

- 第1回: 学部長講話
- 第2回: 卒業生講話(外部講師)
- 第3回: 企業の方の講話(外部講師)
- 第4~6回: 応用生命科学科研究室紹介
- 第7~9回: 食品科学科研究室紹介
- 第10回: 食品科学科研究室紹介
カリキュラムマップ
- 第11~14回: ラボツアー
- 第15回: グループ・ディスカッション



(2)「コミュニケーション論A」

目標

スタディ・スキルの習得

評価対象

自己紹介シート, 模擬講義ノート, 小論文,
実験レポート, 出席状況



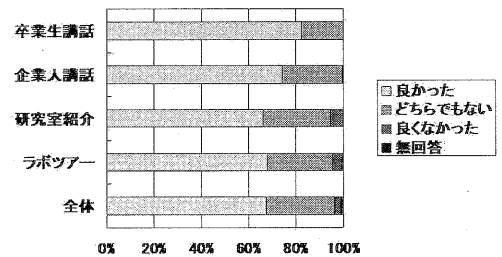
(2)「コミュニケーション論A」授業内容

- 第1回: オリエンテーション, 自己紹介
- 第2・3回: 文章読解方法(外部講師)
- 第4回: ノートの取り方
- 第5・6回: レポート作成方法
- 第7~10回: 文章作成方法(外部講師)
- 第11回: レポート作成方法
- 第12回: 資料収集方法
- 第13回: グループ・ディスカッション
- 第14・15回: プレゼンテーション



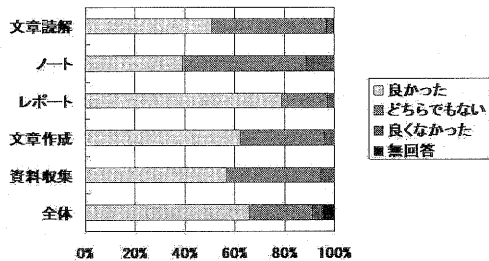
3. 授業アンケート結果

(1)「応用生命科学概論」



3. 授業アンケート結果

(2)「コミュニケーション論A」



4. 教員による評価・反省

- ・ラボツアーが負担になった。
- ・ラボツアーの時間帯に講義があったので、講義を自習にせざるを得なかった。
- ・文章読解・作成は、理系の知識があり、かつ日本語を教えることのできる教員が担当すべき。
- ・キャリア意識を形成できるような内容をもっと入れる方がよい。



4. 教員による評価・反省(2)

- ・カリキュラムを改訂し、初年次教育関連の必修科目を開設すべき。
- ・初年次教育科目を、他の科目や実習ともっと有機的に関連できないか。
- ・効果測定が難しい。
- ・1年次前期で終わらせるのではなく、1年次後期にも連続するような科目があるとよい。



5. 今後の課題

- ・効果測定をどうするか？
- ・1年次後期、さらに2年次前期へどうつなげるか？
- ・少人数教育にするためには、学部内のより多くの教員の協力が必要。